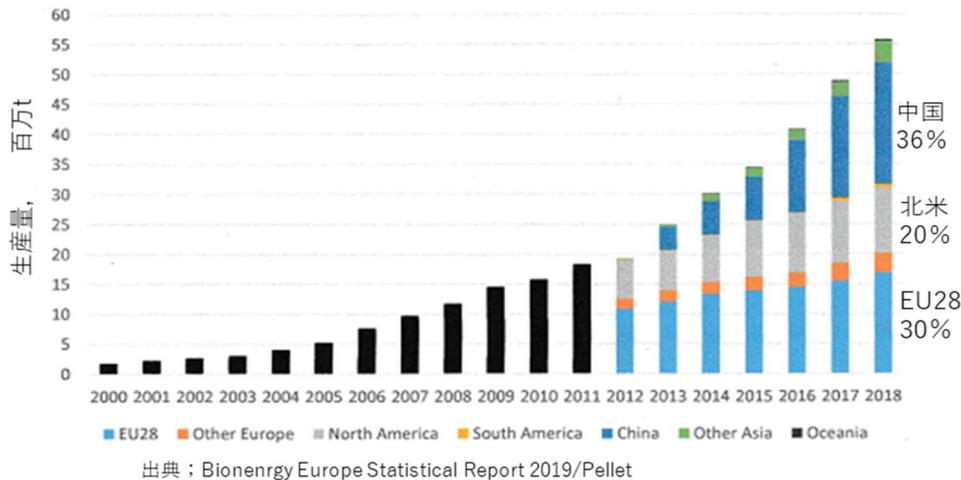


7. 世界の木質バイオマス利活用の実態 (1)

世界の木質ペレット生産の推移

1970年代に始まった木質ペレットの商業生産は、1980年代初頭のエネルギー危機を契機に石油代替燃料として欧州および北米を中心に活発化した。葛巻林業（岩手県）によるわが国で初めてのペレット生産も丁度この時期である。しかしその後の石油価格の急落で化石燃料に対する価格優位性が乏しくなり、品質のばらつき、燃焼機器とのミスマッチングなども相まって木質ペレットの需要は低迷の憂き目を見ることとなった。

1990年代に入って地球温暖化への懸念が急速に高まるにつれて、再生可能エネルギーの利用が大きく前進し始めた。とくに木質燃料の利用は、地域雇用や地域経済循環の拡大、森林資源の活性化などの期待も相乗して活性化し、木質ペレットの生産も図表 7.1 に示すように、2000年以降連続して順調な発展を遂げている。



図表 7.1 世界の木質ペレット生産量の推移

21世紀当初は、生産の中心はEU28と北米に限られていたが、2013年ころからは中国をはじめベトナムなどの台頭が目立つようになっている。

2018年の地域別生産量は、EU28:1,688万t、その他欧州:322万t、北米:1,090万t、南米:55万t、中国:2,025万t、その他アジア:370万t、オセアニア:20万tで、世界計は5,500万トンにも達している。

ただし中国の生産量は中国企業からの非公式データによるもので、広域に分散する零細ペレット生産者を対象とした統計措置の難しさ、木質ペレット以外にアグロペレット（草本ペレット）の混入の可能性、ほとんどが国内流通であるなどが関連して信頼性に欠けることが指摘されている。

因みに2018年のFAOSTAT推計によると、中国生産量は87万tで前述の2,025万tに比べて大幅に少なく、世界計は4,200万tで、前述値より1,300万tも少ない。どちらを信じてよいものやら？

ただ、ペレット貿易の盛んな欧州、北米、中国を除くアジアなどでは、貿易統計も関係して比較的信頼のおけるデータと見なすことができよう。